

日本語ライティング教育における論理的思考支援のための教員研修

同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部 脇田 里子

1 研究の背景

日本語ライティング教育研究では日本語教員への教育支援の必要性が指摘される(鎌田, 2022)。

2022年日本語教員10名に対するインタビュー調査の結果、ライティング指導で難しい点として、「論理的思考」や「批判的思考」などが挙げられる。

表1 ライティングで指導が難しい項目 (一部)

		教員No.									
指導が難しい点		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
A	論理的思考、論証文章構成		○	○		○	○	○			○
B	批判的思考、多面的思考		○		○			○	○		
C	問題提起、テーマ				○	○					○

思考ツールで支援

対話型論証モデル

三角ロジック

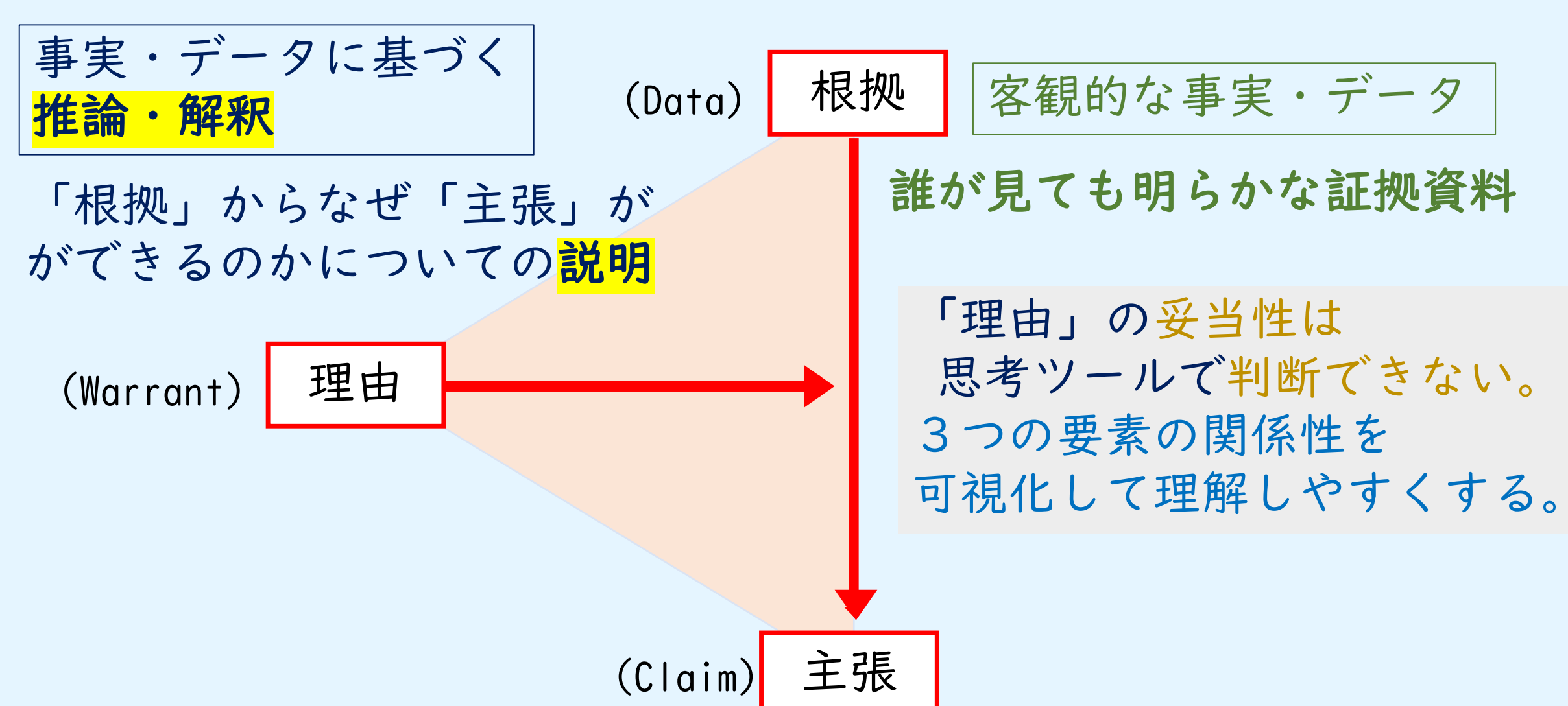
2 研究の目的

教員研修セミナーで「論理的思考」や「批判的思考」等を支援する方法として、思考ツールを導入した。その結果と今後の課題について述べる。

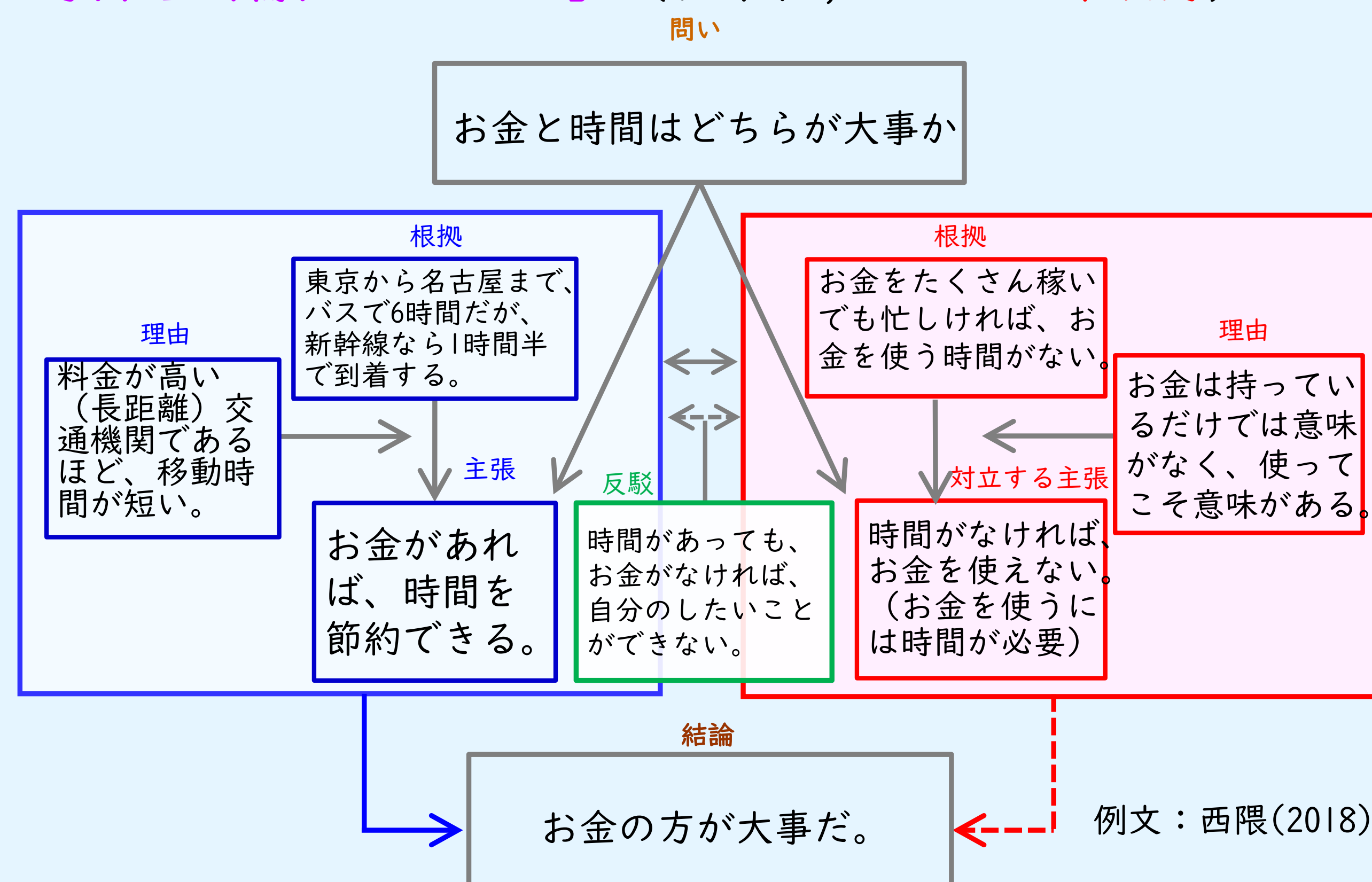
「思考ツール」(脇田, 2017)

思考内容や思考推移の要点を全体把握する視覚情報の総称

「三角ロジック」(鶴田, 2017)



「対話型論証モデル」(松下他, 2022 一部改訂)



3 研究の方法 (教員研修セミナー概要)

- ① 実施日 2023年2月22日 (水) 14時~16時 (2時間)
- ② 実施場所 同志社大学
- ③ 対象者 大学の日本語教員 9名
- ④ アンケート 事前・事後・半年後 (8月下旬に実施予定) 回答8名 「思考ツール」という言葉を聞いたことがある。→ 4名使ったことがある「思考ツール」(複数回答可) KJ法 (3名)、マインドマップ (2名)、三角ロジック (1名)、文章の設計図 (1名)、使ったことはない (5名)

⑤研修のアウトライン

はじめに (教員研修の趣旨説明)、事前アンケートの結果

第1部 論理的思考と思考ツール

・ツール・モデル、・三角ロジック、・練習問題 (個人、全体)

第2部 批判的思考と思考ツール

・水平思考/垂直思考、・対話型論証モデル、・練習問題 (個人、全体)

おわりに (まとめ、アンケート)

⑥セミナーの目標

1. 三角ロジックを使うことができるようになる。
2. 三角ロジックを使って指導できるようになる。
3. 垂直思考・水平思考が理解できるようになる。
4. 対話型論証モデルを使うことができるようになる。
5. 対話型論証モデルを使って指導できるようになる。

4 研究の結果 (事後アンケート調査)

表2 アンケート調査の結果 (N = 9, 回答は5件法)

	平均値	標準偏差
(1) 本日のセミナーの内容を理解できた。	4.22	0.44
(2) 日本語のライティング教育を実践する上でのヒントが得られた。	4.44	0.53
(3) 目標①三角ロジックを使うことができるようになる。	4.22	0.44
(4) 目標②三角ロジックを使って指導できるようになる。	3.56	0.73
(5) 目標③垂直思考・水平思考が理解できるようになる。	4.11	0.60
(6) 目標④対話型論証モデルを使うことができるようになる。	4.00	0.50
(7) 目標⑤対話型論証モデルを使って指導できるようになる。	3.33	0.50
(8) 本日のセミナーを受講してよかった。	5.00	0.00

→ 「思考ツール」を使ったことがない教員が過半数を占めたが、質問の6項目において、5件法で4以上の値を得た。

研修内容を概ね理解し、自分で使うことはできそうである。

→ 2時間の研修では実際に指導できるレベルに達するのは難しい。

「研修に対する自由記述 (一部)」

- ・対話型論証モデルを初めて学び、来期に生かせそう、生かしたい。
- ・学習者に論理的に思考させ、論理的文章を書かせるためにこのような図式のモデルを示すとスムーズに指導できるのではないか。
- ・指導の面では、このモデルを使う時に、やはり根拠と理由の違いを学生に理解させるのが難しそうだ。

→ 全員が「対話型論証モデル」を初めて学んだが、授業で使える手ごたえをもつ教員もいた。

→ 論理的文章作成に、思考ツールの有用性についての所感を得た。

→ 指導面では、三角ロジックの根拠と理由の違いの説明や理由の必要性を理解させることが難しそうだとする意見が見られた。

5 まとめと今後の課題

1. 参加者の「思考ツール」の認知度は半分程度。参加者の殆どが「三角ロジック」と「対話型論証モデル」を初めて使い、論理的思考支援の有用性に気づいた。

→ 思考ツールの啓発活動が必要。

2. 思考ツールの理解に関する質問の回答は、5件法で全て4以上であり、概ね理解されている。今回の研修では具体的な指導法まで進めることはできなかった。

→ こうした研修の継続的な開催や教員同士での指導法に関する情報交換の場の提供が期待される。

参考文献

- 鎌田美千子(2022)「日本語教授法開発と教師養成ライティングにおける書きことばの習得と学習を例に」『文化交流研究』35, pp.87-95.
- 鶴田清司(2017)『授業で使える! 論理的思考力・表現力を育てる三角ロジック』図書文化
- 西隈俊哉(2018)『日本語ロジカルトレーニング 中級』アルク
- 松下佳代他(2022)『対話側論証ですすめる探求ワーク』勁草書房
- 脇田里子(2017)『思考ツールを利用した日本語ライティング』大阪大学出版会

謝辞

本研究はJSPS科研費(研究課題20H01270)の助成を受けた。